物理学 I (力学) 11 回目: 質点系の運動

中野武雄 2012年6月19日



今日の内容

- 保存量の復習
- 質点系の運動
 - 全運動量・全角運動量の時間変化
- 力の合成・分解
 - 力の「作用線」偶力
- 重心を用いた質点系の運動の記述

 - 重心と角運動量重心と運動エネルギー



質点系の運動



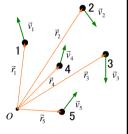
全運動量と全角運動量

全運動量:

$$\vec{P} = m_1 \vec{v}_1 + m_2 \vec{v}_2 + \dots + m_N \vec{v}_N$$
$$= \sum_{i=1}^{N} m_i \vec{v}_i \left(= \sum_{i=1}^{N} \vec{p}_i \right)$$

全角運動量:

$$\vec{L} = \vec{r_1} \times m_1 \vec{v_1} + \dots + \vec{r_N} \times m_N \vec{v_N}$$
$$= \sum_{i=1}^{N} \vec{r_i} \times m_i \vec{v_i} \left(= \sum_{i=1}^{N} \vec{L_i} \right)$$



復習:



内力では全運動量は不変

物体1
$$\vec{F}_1$$

$$^{\text{${\rm b}$}}^{\text{${\rm b}$}} \overset{\vec{F}}{\underset{\sim}{\longrightarrow}} \overset{\vec{F}}{\underset{\sim$$

第三法則より
$$\vec{F}_{12} = -\vec{F}_{21}$$
、よって

$$\vec{p}_1(t_2) - \vec{p}_1(t_1) = \int_{t_1}^{t_2} \vec{F}_{12} dt$$

$$\vec{p}_2(t_2) - \vec{p}_2(t_1) = \int_{t_1}^{t_2} \vec{F}_{21} dt$$

$$\label{eq:continuity} \mathcal{L}^{\mathcal{Y}} \ , \quad \vec{p}_1(t_2) - \vec{p}_1(t_1) = - \left\{ \vec{p}_2(t_2) - \vec{p}_2(t_1) \right\}$$

 $\Rightarrow \qquad \vec{p}_1(t_2) + \vec{p}_2(t_2) = \vec{p}_1(t_1) + \vec{p}_2(t_1)$



質点系の全運動量

各質点について

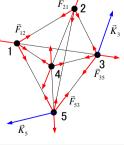
$$rac{dec{p}_{i}}{dt} = \left(mrac{dec{v}_{i}}{dt}
ight) = (r
ight)$$
 の和) + $ec{K}_{i}$

全運動量

$$\vec{P} = \vec{p}_1 + \cdots + \vec{p}_N$$

$$\frac{d\vec{P}}{dt} = \frac{d\vec{p}_1}{dt} + \dots + \frac{d\vec{p}_N}{dt}$$
$$= \vec{K}_1 + \dots + \vec{K}_N$$

外力:外部から質点に働く力 →キャンセルできないので、 全運動量が変化



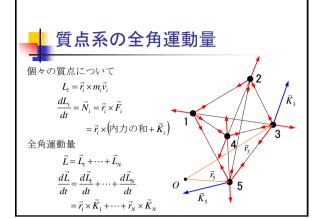
復習:



内力では全角運動量は不変

第三法則より $\vec{F}_{12} = -\vec{F}_{21}$ 、また これらの力は互いを向く方向に物味! 「デュ あるから $(\vec{r}_1 - \vec{r}_2) // \vec{F}_{12} \Longrightarrow (\vec{r}_1 - \vec{r}_2) \times \vec{F}_{12} = 0$ $\vec{r}_1 \times \vec{F}_{12} - \vec{r}_2 \times (-\vec{F}_{21}) = 0$ $\vec{N}_1 + \vec{N}_2 = \frac{d}{dt}(\vec{L}_1 + \vec{L}_2) = 0$

■ 運動量の場合と同様に、質点系における 全角運動量は、内力によっては変化しない





ここまでのまとめ

全運動量

$$\vec{P} = \vec{p}_1 + \dots + \vec{p}_N$$

$$\frac{d\vec{P}}{d\vec{r}} = \vec{K}_1 + \dots + \vec{K}_N$$

全角運動量

$$L = L_1 + \dots + L_N$$

$$\frac{d\vec{L}}{d\vec{L}} = \vec{r}_1 \times \vec{K}_1 + \dots + \vec{r}_N \times \vec{K}_N$$

 $\vec{L} = \vec{L}_1 + \dots + \vec{L}_N$ $\frac{d\vec{L}}{dt} = \vec{r}_1 \times \vec{K}_1 + \dots + \vec{r}_N \times \vec{K}_N$ \vec{K}_0



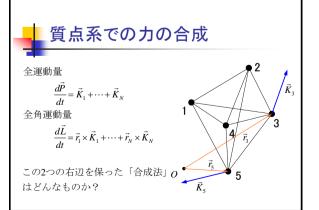
力の合成



これまでの「力の合成」

- 対象が質点だっ たので、常に一 点で交わった。
- 力を「ベクトル」と して加えればOK →「平行四辺形」



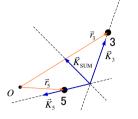




力の「作用線」と合成

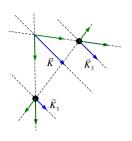
作用線:作用点を通り、力 の向きに平行な線

- 作用線に沿って作用点を移動しても、トルクは変化しない。
- もちろん力の大きさも変化しない。
- 作用線が交わったところで平行四辺形ルールの合成を行えば良い →新しい作用線



作用線が平行な場合

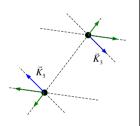
- 仮想的に、向きが反対で大きさが等しく、同じ作用線上にある2つの力を考える
- 合成して、新しい作用線 の上で平行移動
- 作用線の交点で合成すればよい。





合成できない2カ→偶カ

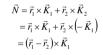
- 大きさが等しく向きが正 反対で、同じ作用線上 にない2つのカ
- さきほどの仮想的な力を加えても、やはり平行線のまま
- どの原点から見ても、トルクの和が等しくなる





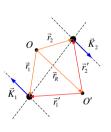
偶力とトルク

Oから見た全トルク



O'から見た全トルク

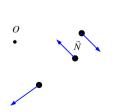
 $\vec{N}' = (\vec{r}_1' - \vec{r}_2') \times \vec{K}_1 = \vec{N}$





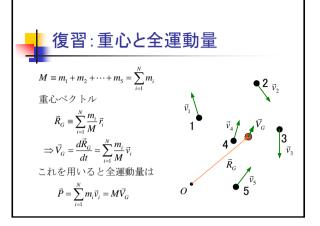
任意の原点の下での力の合成

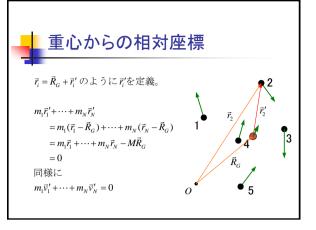
- 原点を通る作用線を持つ力と 偶力とに合成できる。
- 偶力はどの点から見ても同じ
- トルクを発生 ■ 偶カ以外の力は、原点にその 力を正負で起けば:
 - 負の力はもとの力と偶力を構成 →原点回りのトルク
 - 正の力は原点に作用する力 →並進運動の加速度となる

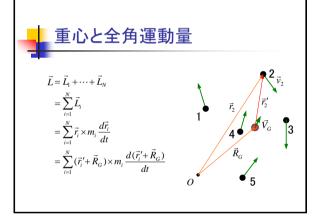


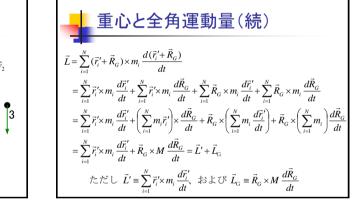


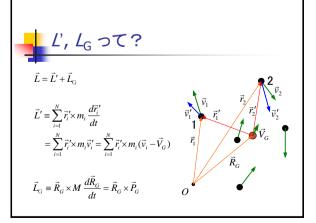
重心を用いた 質点系の運動の記述

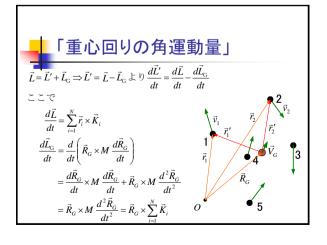












「重心回りの角運動量」(続)

$$\frac{d\vec{L}'}{dt} = \frac{d\vec{L}}{dt} - \frac{d\vec{L}_{G}}{dt}$$

$$= \sum_{i=1}^{N} \vec{r}_{i} \times \vec{K}_{i} - \vec{R}_{G} \times \sum_{i=1}^{N} \vec{K}_{i}$$

$$= \sum_{i=1}^{N} (\vec{r}_{i} - \vec{R}_{G}) \times \vec{K}_{i}$$

$$= \sum_{i=1}^{N} \vec{r}_{i}' \times \vec{K}_{i}$$

$$= \sum_{i=1}^{N} \vec{r}_{i}' \times \vec{K}_{i}$$

$$= \sum_{i=1}^{N} \vec{r}_{i}' \times \vec{K}_{i}$$
5



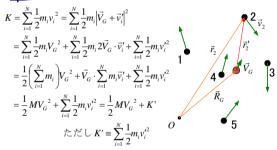
結局...

$$\frac{d\vec{L}'}{dt} = \sum_{i=1}^{N} \vec{r}_i' \times \vec{K}_i$$

- ■「質点系の、重心に関する全角運動量の 時間変化は、重心に関する外力のトルク の総和に等しい」
 - (「重心に関する」=「重心を原点とした」)
- 重心の運動状態によらない(重心が加速 度運動していても成立する)。



質点系の運動エネルギー





「重心回りの…」のまとめ

$$\vec{P}=\vec{P}_G,$$
 $\vec{P}'=\sum_{i=1}^N m_i \vec{v}_i'=0$ 。 「重心回りの全運動量」は0

$$\vec{I}' = \sum_{i=1}^{N} \vec{r}' \times m \vec{v}'$$

 $ec{L}=ec{R}_G imesec{P}_G+ec{L}',$ $ec{L}'=\sum_{i=1}^Nec{r}_i' imes m_iec{v}_i'$ 事に関りの全角運動量」は全角運動量がら「重心の角運動量」を $\dfrac{dec{L}'}{dt}=\sum_{i=1}^Nec{r}_i' imes ec{K}_i$ 事 心周りの全角運動量の時間変 化は「重心周りの全角運動量の時間変

$$K = \frac{1}{2}MV_G^2 + K$$

$$K' = \sum_{i=1}^{N} \frac{1}{2} m_i v_i'^2$$

 $K=rac{1}{2}MV_G^{\ 2}+K^{\ 1}, \qquad K^{\ 2}=\sum_{i=1}^Nrac{1}{2}m_iv_i^{\ 2}$ • 「重心回りの運動エネルギー」は 全運動エネルギーから「重心の 運動エネルギー」を引いたもの